

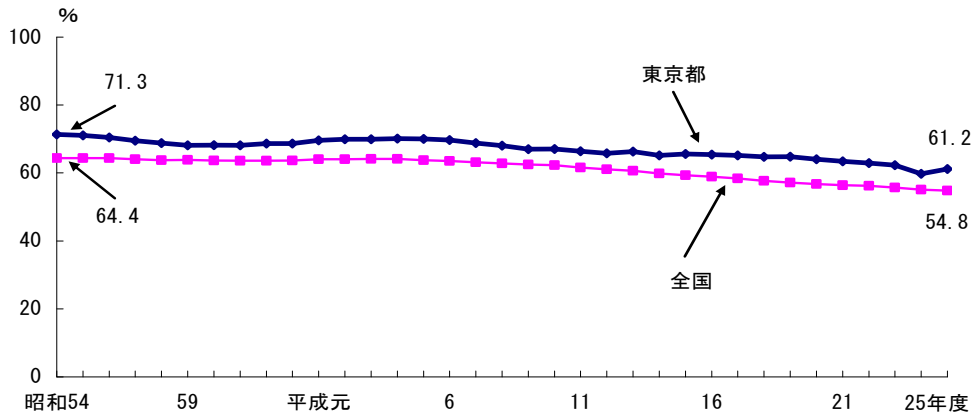
【東京都と全国との比較】

1 幼稚園

- ① 昭和54年度から幼稚園修了者数の小学校第1学年児童数に対する割合の推移をみると、東京都及び全国ともに低下傾向であるが、東京都の比率は全国を常に上回っている。
- ② 今年度の東京都と全国の差は6.4ポイントとなった。

(図15)

図15 幼稚園修了者数の小学校第1学年児童数に対する割合の比較



注) 幼稚園修了者数は各年3月修了者、小学校1学年児童数は各年5月1日在籍者

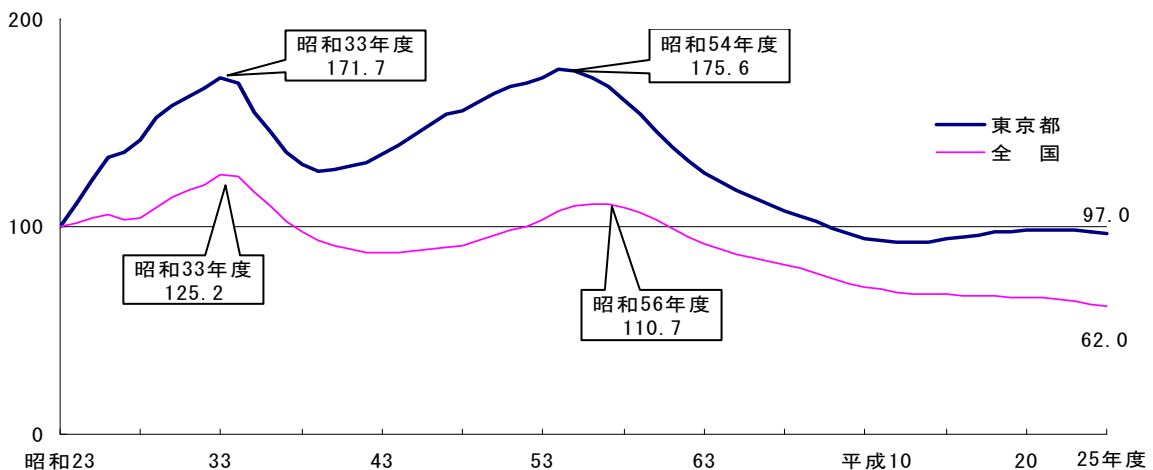
2 小学校

(1) 児童数

- ① 東京都の第1次ベビーブームによる小学校児童数のピークは、全国と同じ昭和33年度で、昭和23年度を100とした場合の指数は171.7となっており、全国の125.2を46.5ポイント上回っている。
- ② 東京都の第2次ベビーブームによる児童数のピークは、昭和54年度で全国より2年早く、指数では175.6で、第1次ベビーブームのピークを3.9ポイント上回っている。
- ③ 第2次ベビーブームによるピーク以降、全国は昭和57年度から低下が続いているが、東京都はピークから低下した後、平成13年度から平成22年度まで上昇し、平成23年以降は低下に転じ今年度は平成24年度より0.1ポイント低下した。

(図16)

図16 小学校児童数の比較 (昭和23年度 = 指数100)



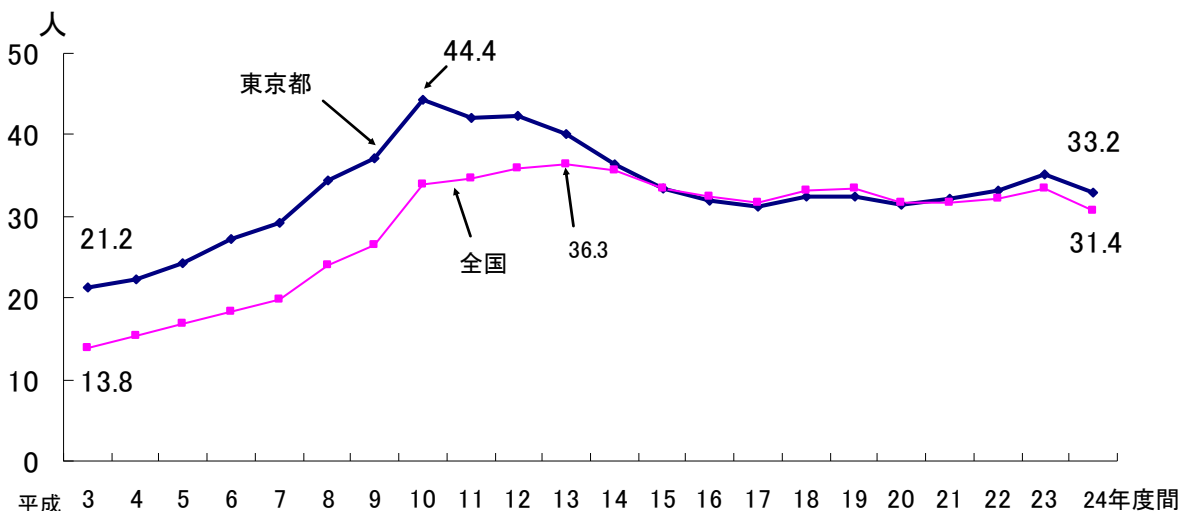
注) 昭和23年度の児童数を100として各年度の児童数を指数化している。

(2) 不登校者数

- ① 小学校の不登校者数を1万人当たりの児童数で見ると、東京都は平成10年度間のピークから11.2人減少して33.2人になった。また、全国では平成13年度間のピークから4.9人減少し31.4人となった。
- ② 東京都及び全国の小学校の児童1万人当たりの不登校者数は、平成14年度間からほぼ同じ傾向で推移していたが、今年度は東京都が全国を1.8ポイント上回った。

(図17)

図17 小学校児童1万人当たりの不登校者数の割合の比較



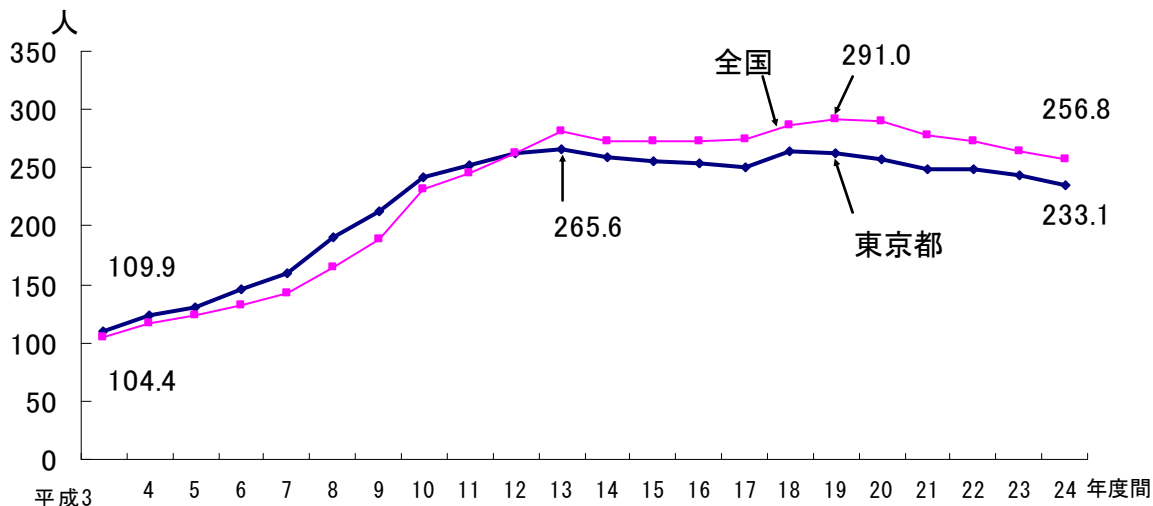
注) 平成3年度間から現在の基準(年度間30日以上欠席した者)で調査を開始した。

3 中学校

- ① 中学校の不登校者数を1万人当たりの生徒数で見ると、東京都は平成13年度間のピークから32.5人減少して233.1人となった。また、全国では平成19年度間のピークから34.2人減少し256.8人となった。
- ② 平成4年度間から平成11年度間まで東京都は全国を上回っていたが、平成12年度間以降は、全国を下回っている。

(図18)

図18 中学校生徒1万人当たりの不登校者数の割合の比較



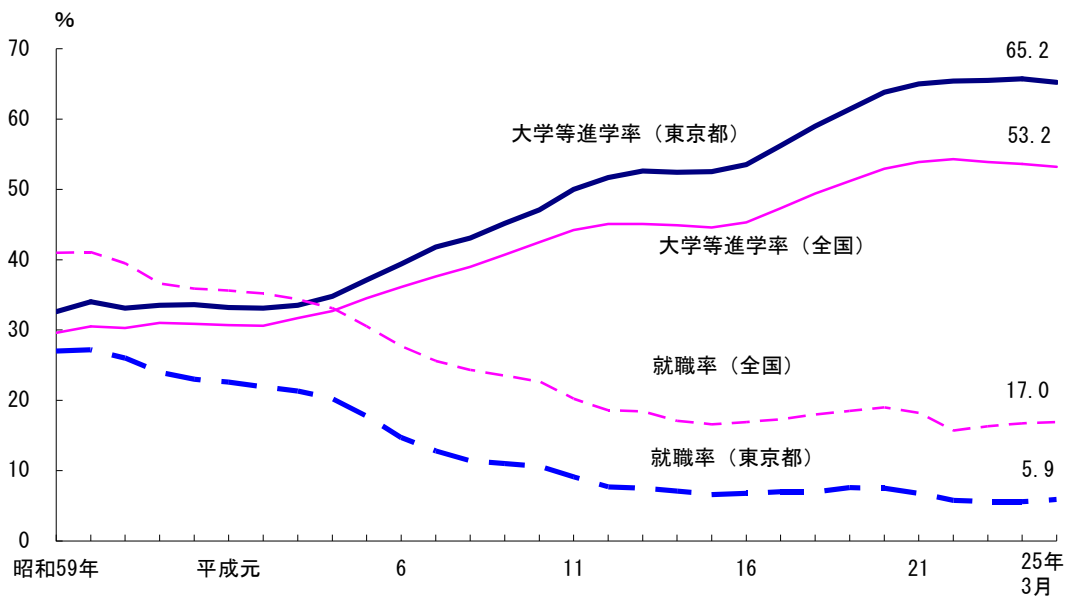
注) 平成3年度間から現在の基準(年度間30日以上欠席した者)で調査を開始した。

4 高等学校

(1) 進学率・就職率

- ① 東京都の大学等進学率は、全国を上回っており、今年度は、東京都が全国を12.0ポイント上回った。
- ② 東京都の就職率は、全国を下回っており、常に10ポイント以上の差がひらいている。 (図19)

図19 高等学校卒業者の大学等進学率及び就職率の比較

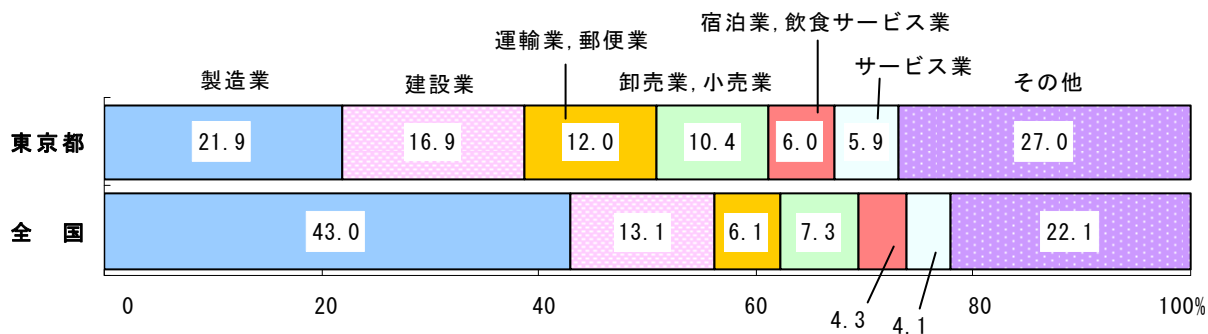


注) 大学等進学者は、昭和59年度から現在と同じ調査項目で調査を開始した。

(2) 就職者の産業別構成比

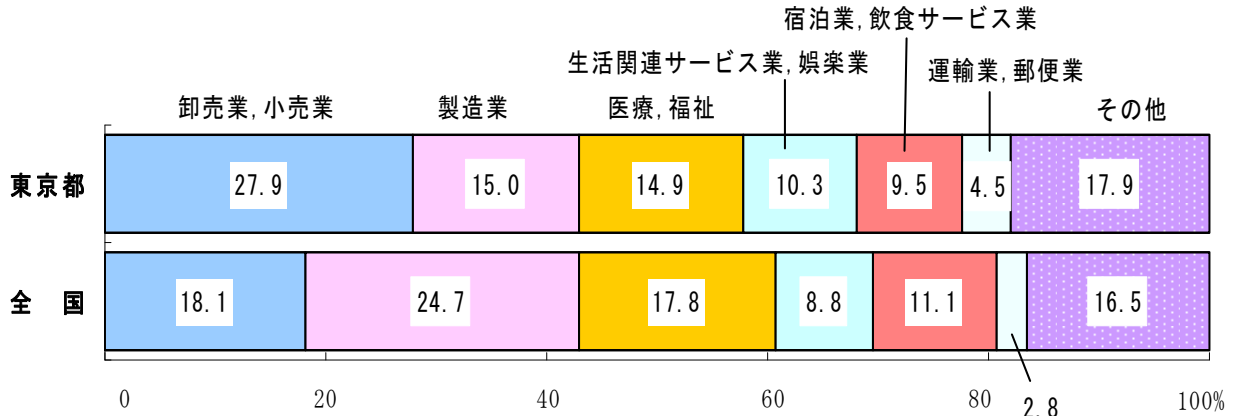
- ① 高等学校卒業者の男子就職者の産業別構成比では、東京都は「製造業」が21.9%で最も多いが、全国の43.0%より21.1ポイント下回っている。
- ② 男子就職者を全国値と比較すると、「建設業」が3.8ポイント、「運輸業、郵便業」が5.9ポイント、「卸売業、小売業」が3.1ポイント、「宿泊業、飲食サービス業」が1.7ポイント、「サービス業」が1.8ポイント、それぞれ全国を上回っている。 (図20)

図20 就職者の産業別構成比の比較 (平成25年3月卒業者 男)



- ③ 高等学校卒業者の女子就職者の産業別構成比では、東京都は「卸売業,小売業」が27.9%で最も多く、全国の18.2%を9.7ポイント上回っている。
- ④ 女子就職者を全国値と比較すると、「生活関連サービス業,娯楽業」が1.5ポイント、「運輸業,郵便業」が1.7ポイント、それぞれ全国を上回っている。また、「製造業」が9.7ポイント、「医療,福祉」が2.9ポイント、「宿泊業,飲食サービス業」が1.6ポイント全国をそれぞれ下回っている。(図21)

図21 就職者の産業別構成比の比較 (平成25年3月卒業 女)



5 専修学校

- ① 東京都の専修学校生徒数は144,189人で、全国の生徒数660,078人の21.8%を占めている。
- ② 分野別の構成比でみると、東京都では「文化・教養関係」が最も多く34.3%で、全国の22.0%を12.3ポイント上回っている。また、「医療関係」は18.8%で、全国の33.0%を14.2ポイント下回っている。(図22)

図22 専修学校生徒数の分野別構成比の比較 (平成25年度)

